

各関係機関の長 殿

福岡県病害虫防除所長

平成17年度病害虫発生予報第4号について

このことについて、以下のとおり送付します。

平成17年度病害虫発生予報第4号（7月）

【普通作物】

作物名	病害虫名	発生現況 (平成比)	発生予想 (平成比)
水稻	いもち病(葉いもち)	-	少ない
	萎縮病	-	並
	縞葉枯病	-	やや多い
	ツマグロヨコバイ	並	並
	ヒメトビウンカ	やや多い	やや多い
	セジロウンカ	並	並
	トビイロウンカ	-	並
	コブノメイガ	-	並

【普通作物 - 普通期水稻】

1 いもち病(葉いもち)

(1) 予報の内容

発生量：平成より少なく、前年並

(2) 予報の根拠

ア 6月5半旬調査の結果、発病は認められなかった(発病株率は平成：0.8%、前年：0%)。

イ 気象予報では7月の平均気温は平成より高く、降水量及び日照時間は平成並と予想されている(以下の病害虫についても同じ)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 補植用の置き苗は葉いもちの発生源になりやすいので、早めに処分する。

イ 発生に注意し初期防除に努める。

ウ 防除薬剤は「平成17年度普通作物病害虫防除の手引き」を参照する(以下の病害虫についても同様)

2 萎縮病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 6月5半旬調査の結果、発病は認められなかった。

イ ツマグロヨコバイのイネ萎縮ウイルス保毒虫率は0%であった（平成17年度病害虫発生予報第2号参照）。

(3) 防除上注意すべき事項

萎縮病の常習発生地で、ツマグロヨコバイの発生が多い場合は防除を実施する。

3 縞葉枯病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 6月5半旬調査の結果、発病は認められなかった。

イ ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率は平年よりやや高かった（平成17年度病害虫発生予報第2号参照）。

ウ 6月5半旬調査の結果、本田のヒメトビウンカ密度が平年よりやや高かった。

(3) 防除上注意すべき事項

箱施薬を実施していないほ場で、ヒメトビウンカの発生が多い場合は防除を実施する。

4 ツマグロヨコバイ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

6月5半旬調査の結果、10株当たり成幼虫数は平均0.6頭（平年：0.3頭、前年：1.0頭）であった。

5 ヒメトビウンカ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

6月5半旬調査の結果、10株当たり成幼虫数は平均3.8頭（平年：0.5頭、前年：2.1頭）であった。

6 セジロウンカ

(1) 予報の内容

ア 発生時期：平年・前年並

イ 発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 4月27日に予察灯で初飛来を確認し（平年：5月28日、前年：5月12日）、その後も5月5日、6月12日、21日に飛来が確認された。

イ 6月5半旬調査の結果、10株当たり成幼虫数は平均0.6頭（平年：0.7頭、前年：0.3頭）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

防除時期は、病害虫防除所のホームページに飛来状況及び発生パターン図を掲載するので参照する。

7 トビイロウンカ

(1) 予報の内容

ア 発生時期：平年・前年よりやや遅い

イ 発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 6月20日現在、飛来は確認されていない(初飛来確認日 平年：6月16日、前年：6月21日)。

イ 6月5半旬調査の結果、本田での発生は認められなかった。

ウ 気象予報では7月は平年と同様に曇りや雨が多い日が続くと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

防除時期は、病害虫防除所のホームページに飛来状況及び発生パターン図を掲載するので参照する。

8 コブノメイガ

(1) 予報の内容

ア 発生時期：平年・前年よりやや遅い

イ 発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 予察灯及びネットトラップでは飛来を確認していない。

イ 6月5半旬調査の結果、本田での発生は認められなかった。

ウ 気象予報では7月は平年と同様に曇りや雨が多い日が続くと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

防除時期は、病害虫防除所のホームページに飛来状況及び発生パターン図を掲載するので参照する。

【果 樹】

作物名	病虫害名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
カンキツ	黒点病 ミカンハダニ	並 多い	並 多い
ナシ	ナシヒメシンクイ ハダニ類	やや多い 多い	やや多い 多い
ブドウ	べと病	やや少ない	やや少ない
カキ	炭疽病 うどんこ病 フジコナカイガラムシ ハマキムシ類	やや少ない やや少ない 多い 並	やや少ない やや少ない 多い 並
イチジク	アザミウマ類	やや多い	やや多い
果樹共通	カメムシ類	少ない	少ない

【果 樹】

1 カンキツ黒点病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 6月5半旬調査の結果、発病果率は0.2% (平年：0.2%、前年：0.2%) であ
った。

イ 気象予報では7月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている (以下
の病虫害についても同じ) 。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 伝染源の枯れ枝を極力除去する。

イ 降雨が続くと多発するので、積算降水量250mmを目安に降雨の合間をぬって薬剤散布
を行う。

2 カンキツのミカンハダニ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より多い

(2) 予報の根拠

6月5半旬調査の結果、寄生葉率は46.2% (平年：13.8%、前年：20.1%)
であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤防除は、薬液が葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。

イ 同一系統薬剤使用による薬剤感受性の低下を避けるため、異なる系統の薬剤をローテー
ション散布する。

3 ナシのナシヒメシンクイ

(1) 予報の内容

発生量 : 平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 第1世代成虫発生時期～6月4半旬までのフェロモントラップ(県内3カ所平均)による誘殺虫数は、141頭(平年:107頭、前年:110頭)であった。

イ 気象予報では7月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている(以下の病害虫についても同じ)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 第2世代成虫の発蛾最盛期は平坦地域で6月5半旬、山間地域で6月6半旬～7月1半旬頃と予想されるので、発蛾最盛期7日後を目安に防除を行う。なお、発蛾最盛期を過ぎても成虫が減少しない場合は、更に7～10日後に追加防除を行う。

イ 幼虫は主に果頂部から果実に食入加害するので、防除に当たっては、果実に薬液が十分かかるように散布する。

4 ナシのハダニ類

(1) 予報の内容

発生量 : 平年・前年より多い

(2) 予報の根拠

6月5半旬調査の結果、寄生葉率は17.1%(平年:2.3%、前年:3.3%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤防除は、薬液が葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。

イ 同一系統薬剤使用による薬剤感受性の低下を避けるため、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

5 ブドウベと病

(1) 予報の内容

発生量 : 平年・前年よりやや少ない

(2) 予報の根拠

ア 6月5半旬調査の結果、発病葉は認められなかった(発病葉率は平年:0.7%、前年:1.2%)。

イ 気象予報では7月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発病後は防除効果が低いので予防散布を徹底する。

イ 罹病葉は感染源となるので極力除去する。

ウ ボルドー液の散布は、降雨直後の雨滴や散布直後に降雨があると薬害が発生するので注意する。

6 カキ炭疽病

(1) 予報の内容

発生量 : 平年・前年よりやや少ない

(2) 予報の根拠

ア 6月5半旬調査の結果、発病枝率は0.1%(平年:0.9%、前年:0.7%)であ

った。

イ 同時期の発病果は認められなかった（発病果率は平年：0.1%、前年：0%）。

ウ 気象予報では7月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている（以下の病害虫についても同じ）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 罹病枝及び罹病果は、感染源になるので除去する。

イ 発病枝の多い園では、降雨により感染が拡大するので、薬剤防除を徹底する。

ウ 樹冠内部の徒長枝に発病しやすいので、防除にあたっては薬液が樹冠内部にも十分かかるよう丁寧に散布する。

7 カキのフジコナカイガラムシ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より多い

(2) 予報の根拠

6月5半旬調査の結果、寄生果率は14.3%（平年：4.3%、前年：3.3%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 第2世代以降は齢期が乱れるとともに、果実が肥大しヘタの間隙がなくなり防除効果が上がりにくくなるので防除を徹底する。

イ 薬剤防除は、ヘタの下や葉と重なった果実の表面などに薬剤がかかるよう丁寧に散布する。

8 イチジクのアザミウマ類

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 6月1半旬から5半旬までの誘引剤（農業総合試験場豊前分場）での誘殺虫数は、5,983頭（平年：3,378頭、前年：4,095頭）であった。

イ 気象予報では7月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

園地周辺の畦畔等で、6～8月に開花する雑草に発生するので除草を徹底する。

9 果樹共通のカメムシ類

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より少ない

(2) 予報の根拠

ア 6月1半旬～4半旬までの予察灯（県内6カ所平均）でのチャバネアオカメムシの誘殺虫数は、5頭（平年：716頭、前年：1,272頭）、ツヤアオカメムシの誘殺虫数は、1頭（平年：331頭、前年：636頭）と少ない。

イ 同時期の集合フェロモントラップ（筑紫野市吉木）でのチャバネアオカメムシの誘殺虫数は、120頭（平年：5,426頭、前年：23,195頭）、ツヤアオカメムシの誘殺虫数は、1頭（平年：729頭、前年：500頭）と少ない。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発生が少ないので防除の必要はない。

イ 果樹カメムシ類の発生状況は病害虫防除所ホームページに掲載しているので参照する。

【茶】

作物名	病虫害名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
茶	炭疽病	やや少ない	並
	輪斑病	並	並
	カンザワハダニ	多い	多い
	チャノホソガ	やや少ない	並
	チャノコカクモンハマキ	やや多い	やや多い
	チャノミドリヒメヨコバイ	並	並
	チャノキイロアザミウマ	多い	多い

【茶】

1 炭疽病

(1) 予報の内容

発生量 : 平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 6月5半旬調査の結果、発病葉は認められなかった（発病葉数は平年：0.4葉、前年：0.3葉）。

イ 気象予報では7月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている（以下の病虫害についても同じ）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 摘採残葉での発生に注意し、萌芽から3葉期までに薬剤防除を実施する。特に最終摘採後の芽は、来年の一番茶の母枝葉になるので、防除を徹底する。

イ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する（以下の病虫害についても同じ）。

2 輪斑病

(1) 予報の内容

発生量 : 平年・前年並

(2) 予報の根拠

6月5半旬調査の結果、発病葉は認められなかった（発病葉数は平年：0.0葉、前年：0葉）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 葉や茎の傷口から病原菌が感染するため、三番茶摘採、刈り落としの当日、又は翌日に薬剤防除を実施する。

イ 輪斑病の発生園では、新梢枯死症も発生しやすいので注意する。

3 カンザワハダニ

(1) 予報の内容

発生量 : 平年・前年より多い

(2) 予報の根拠

6月5半旬調査の結果、寄生葉率は28.8%（平年：4.6%、前年：0.9%）で、

50葉当たり寄生虫数は138.4頭(平年:10.2頭、前年:0.8頭)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

発生状況をよく観察し、寄生葉率が2%以上の園では速やかに防除を行う。

4 チャノホソガ

(1) 予報の内容

発生量 : 平年・前年並

(2) 予報の根拠

6月5半旬調査の結果、巻葉数は0.2葉(平年:1.5葉、前年:0.4葉)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア ほ場での成虫の発生に注意し、発蛾最盛期の7日後に防除を行う。

イ 巻葉後は防除効果が劣るため、巻葉が見られたら直ちに防除を行う。

5 チャノコカクモンハマキ

(1) 予報の内容

ア 発生時期: 平年・前年並

イ 発生量 : 平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 6月5半旬調査の結果、巻葉は認められなかった(巻葉は平年:0.0葉、前年:0.0葉)。

イ 4月1半旬~6月5半旬までのフェロモントラップの誘殺虫数は次のとおりである。

筑後市 845頭(平年:746頭、前年:604頭)

八女市 1450頭(平年:812頭、前年:296頭)

(3) 防除上注意すべき事項

ア 第2世代成虫の発蛾最盛期は平年並の7月6半旬頃と予想されるので、ほ場での成虫の発生に注意し、発蛾最盛期の7日後に防除を行う。

イ 巻葉後は防除効果が劣るため、巻葉が見られたら直ちに防除を行う。

6 チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報の内容

発生量 : 平年・前年並

(2) 予報の根拠

6月5半旬調査の結果、たたき落としによる虫数は、平均0.3頭(平年:0.5頭、前年:0.2頭)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

発生状況をよく観察し、たたき落とし(A4版白紙上)で4頭以上確認された場合は防除を行う。

7 チャノキイロアザミウマ

(1) 予報の内容

発生量 : 平年・前年より多い

(2) 予報の根拠

6月5半旬調査の結果、たたき落としによる虫数は、平均10.8頭(平年:5.5頭、前年:7.9頭)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

発生状況をよく観察し、たたき落とし(A4版白紙上)で10頭以上確認された場合は防除を行う。

【野 菜】

作物名	病害虫名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
イチゴ (育苗床)	うどんこ病 炭疽病 ハダニ類	少ない 並 多い	少ない 並 多い
アスパラガス	斑点病 ハダニ類 アブラムシ類 アザミウマ類 鱗翅目類	少ない 並 やや少ない やや多い 並	少ない 並 やや少ない やや多い 並
ネギ	シロイチモジヨトウ	並	並

【野 菜】

1 イチゴのハダニ類

(1) 予報の内容

発生量：平年、前年より多い

(2) 予報の根拠

ア 6月5半旬調査の結果、子株での寄生株率は18.7% (平年：3.3%、前年：6.6%) であった。

イ 気象予報では7月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 多発生後は防除が困難になるので、発生状況に十分注意し、初期防除を徹底する。

イ ハダニは摘葉するとその葉から急速に移動するので、摘葉した葉はほ場内に放置せず、ビニル袋等に入れ密封して処分する。

ウ 薬剤抵抗性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション使用する。

2 アスパラガスのアザミウマ類

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多く、前年並

(2) 予報の根拠

ア 6月5半旬調査の結果、寄生株率は58.3% (平年：48.7%、前年：58.9%) であった。

イ 気象予報では7月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

多発生後は防除が困難となるので、発生状況に十分注意し、初期防除を徹底する。

病害虫防除所では、病害虫の発生状況と防除について、ホームページでお知らせしています。アドレス及び番号は下記の通りです。

ホームページアドレス	http://www.jppn.ne.jp/fukuoka
電子メールアドレス	kfok0301@sp.jppn.ne.jp

九州北部地方（山口県を含む） 1か月予報

（6月25日から7月24日までの天候見通し）

平成17年6月24日
福岡管区气象台発表

<特に注意を要する事項>

九州北部地方では、降水量が少ない状態が続いています。この状態は、少なくとも向こう1週間は続く見込みです。

<予想される向こう1か月の天候>

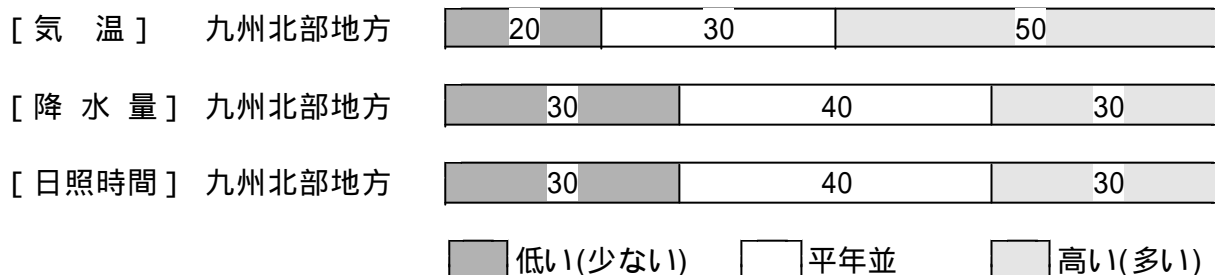
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。

九州北部地方では、1週目は平年に比べ晴れて暑い日が多く、その後は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

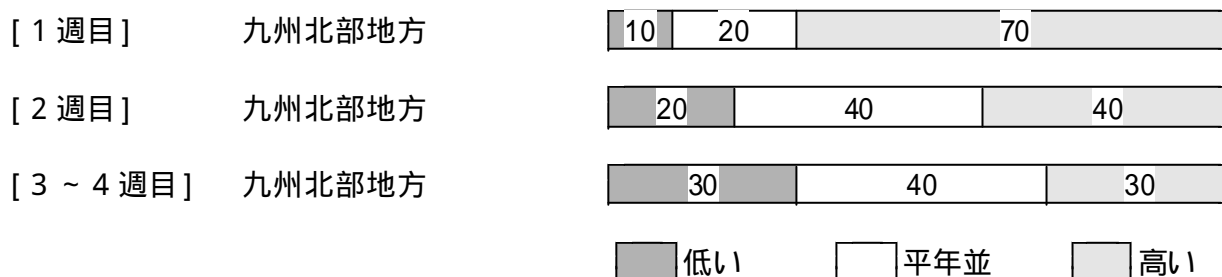
向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並でしょう。

週別の気温は、1週目は高く、2週目は平年並か高く、3～4週目は平年並でしょう。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）>



<気温経過の各階級の確率（％）>



<予報の対象期間>

1か月 : 6月25日(土)～ 7月24日(日)
1週目 : 6月25日(土)～ 7月 1日(金)
2週目 : 7月 2日(土)～ 7月 8日(金)
3～4週目 : 7月 9日(土)～ 7月22日(金)

<次回発表予定等>

1か月予報：毎週金曜日 14時30分 次回は7月1日
3か月予報：7月25日(月) 14時00分